

# 子育てに悩んでいませんか？

子どもの心によりそって



んで

いませんか？

楽しい子育てをしましょう



## 千差万別の子育て

子どもとともに親も成長します

新しい命が生まれ、その命は大切に守られ育て上げられていく。『過去無量のいのちのバトンを受け継いで今ここに自分の番を生きている』。相田みつを氏の作品の中に「自分の番いのちのバトン」という詩があります。

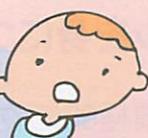
その命を私たちは立派に育てていかなければなりません。しかし、そのための参考書があるわけでもなく、一冊の育児書にすべての答えがあるわけではありません。まさしく千差万別の子育てが始まっています。その日々に戸惑い、悩むこともあるでしょう。でも焦ったり、一人で抱え込んだりしないでください。いろいろな機関を利用し、子育ての先輩からアドバイスをもらって、子どもと共に成長して、本当の「親」になっていけばいいと思うのです。教え育み(教育)、共に育ち(共育)そして「親」になっていくのです。まずそのために“子どもの発達段階”とあわせて、子育てのヒントを紹介したいと思います。



## 子どもの発達段階と子育てのヒント

1

乳幼児期  
0~1歳



スキンシップと優しい声かけが大切です

乳幼児期の子どもは、運動能力は未熟で、まだ泣くことしかできません。例えばおむつがぬれているとか、ミルクが飲みたいとかを発信しているわけです。でも、その泣き声を聞くとイライラしてしまうことがありますね。そんなときは、その泣き声を、言葉だと思って聴くようにしてみましょう。そして、その泣き声にやさしく答えかけてください。赤ちゃんでも、しっかりその声を聴き分けています。



「お腹がすいたね。はい、どうぞ」「だっこしようね。気持ちいいよ」というあたたかい言葉かけとまなざしは赤ちゃんに十分伝わります。そうすると、「**自分をあたたかく見守ってくれる人がいる**」と感じていくようになり、それがこれから成長していく上での「**基本的信頼感**」の基盤となっていくのです。安心感いっぱい、スキンシップいっぱいの中で、あたたかい親子関係を作りあげましょう。

## 2

幼児期  
2~3歳



## 三つ子の魂 百までも

ハイハイ、つかまり立ちと成長してきた子どもは、どんどん手足を自由に動かせるようになります。記憶力や言語力も日に日についてきます。そうすると、何でも自分でやりたがるようになって「魔の二歳児」などと言われるようになったりします。しかし子どもが何でも自分でしたいと言い出すことはごく自然なことであり、反抗しているのではなく自主性が出てきたのだと理解してください。“**自分で考える・思い浮かべる**”そして“**試してみる**”“**最後までやり抜く**”という力をじっくりつけていくのもこの頃からです。それは遊びの中から始まり、周囲にある何気ないものがすべて材料となっていきます。



また大人の行動をすべてお手本にすることを意識してください。それと同時に、ものごとの善悪もきちんとしつけていきましょう。節目にはしっかりと“**ダメなものはダメ**”“**よそはよそ、うちはうち**”という信念をもって接することです。‘**三つ子の魂百までも**’と昔から言われるとおりです。

## 3

就学前  
4~5歳



## 社会のルール、家庭のルールを身につけさせましょう

この頃になると、さまざまな能力が完成され、積極的に物事と関わり、集団と関わることに喜びを得るようになります。そして、どうしても言葉や知識が先行してしまいがちなこの頃にこそ“**五感**”を使って、さまざまな体験や経験をさせてあげてほしいと思うのです。ヌルヌルやベタベタは、実際に経験してみるとわかる言葉です。

悔しい、寂しいという感情は、子どもどうしが交わらないとわからない感情です。ですから、この時期からどんどん五感を使っての活動と、子どもどうし関わりの機会を作ってあげてください。基本的な生活習慣を身につけるとともに、社会のルール・家庭のルールといった社会性も身につけさせていきましょう。子どもたちは実際に体験しなければわからないことばかりなのです。

ワーアー  
**ヌルヌル**  
ダーニー



4

## 児童期 6~12歳



### 努力したことを認めてあげて

学校では、同年齢の集団での活動がほとんどです。その中で友だちに共感し、我慢や分け合い、交代などができるようになります。そこに基礎学力の習得<sup>がくとく</sup>という分野が加わってきます。道徳的な行いと勤勉性<sup>おこな きんべんせい</sup>が求められるようになってくるのです。まさしく「知・徳・体のバランス」が大切になります。この頃は結果を第一に考えずに、**頑張っているその過程こそ重大**<sup>がんば</sup>であり、どれだけ最後まであきらめずに努力したかということを認めてあげましょう。

また「早寝・早起き・朝ごはん」と言われている生活のリズムを整え、その中で親子がしっかりとコミュニケーションをとり合い、どんなことでも話ができる関係を作っていくものです。

5

## 青年期 13~18歳



### 人生の先輩としてあたたかい目で

あたたかい家庭<sup>ふとこころ</sup>という懐から、いよいよ社会という世界に出て行かなければならぬと模索<sup>もさく</sup>し始めるこのころの精神状態は、とてもデリケートなものになっています。この葛藤<sup>かつとう</sup>時期にこそ、家庭が安らぎの場所とならなければなりません。

「あなたはあなたらしく」というメッセージを伝え、子ども自身が**自分が好き、自分は生きている価値がある**と思う自尊心<sup>じそんしん</sup>を育てなければなりません。そうして、子どもを一個人として信じ、見守るとともに、自立に向けて、また将来に向けて、今度は人生の先輩として話し合えるような親子でありたいものです。

このように、成長・発達に応じた特性をきちんと把握し、子どもの心に寄りそうこと<sup>はあく</sup>で、新しい子どもの姿が見えてくるかもしれません。「どうしてこの子はこうなのだろう」という事がらも「だからこうなのだ」と理解できるでしょうし、「楽しく子育てする」ことにもつながるでしょう。それこそが**受容と共感**<sup>じゅよう きょうかん</sup>です。発達段階ごとにしっかりその子どもの気持ちを受け止め、共に感じ、正しく導いてあげることです。

そして、自分のことをわかってくれて“愛されている”と感じ、安心感をしっかりとつことができれば、周りの人と関わり、「信頼関係」を作り上げていけるようになります。



## 地域でも子育てを

## “元気でがんばっているか？”の 声かけこそが「地域での見守り活動」です

周りの人との関わり「信頼関係」が、家庭という一番小さな社会から、「友だち」「先生」へつながり、それが「近所のおじさん、おばさん」へと広がっていくといいですね。小さい頃から近所の人が、“おはよう”と声をかけてくれたり、自分のことを応援してくれたり、しかってくれたりする。そして“元気で頑張っているか？”の声かけが一つの間にか励みになります。これこそが「地域での見守り活動」となるわけです。“子どもの頃から見ているよ”の一言が本当の意味の見守りなのです。これは、何も難しいことはないのです。



最後に「一人一人を大切に育てる」ということは、その「一人一人の違いを認めていく」ということであり、それこそが子育ての基本であることを忘れないようにしましょう。

命の重みを感じ、何よりかけがえのない存在であることを互いに感じながら、一人一人の個性・能力を正しく理解し、発達段階に応じて “**その子らしさ**” を伸ばしていくことこそが**真の子育て**であり、その充実・発展のために「家庭・地域・学校」の連携がより一層図られていくことを心から願っています。

★発行にあたって この冊子は市民のみなさんに人権について正しく理解していただくために作成しました。  
家庭や地域・職場などの話し合いや人権学習の資料として、ご活用願えれば幸いです。

著者紹介 濱田 英世（はまだ ひでよ）尼崎市教育委員会 教育委員長  
子育てサークル やんちゃんこ  
つどいの広場 わいわいステーション 代表

### 子育てに悩んだときは、次の窓口に相談してください。

赤ちゃんテレホン相談（育児や予防接種のことなど）

- |           |           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| ●中央地域保健担当 | 6411-8585 | ●小田地域保健担当 | 6401-8181 |
| ●大庄地域保健担当 | 6418-8181 | ●立花地域保健担当 | 6427-8181 |
| ●武庫地域保健担当 | 6432-8181 | ●園田地域保健担当 | 6492-8181 |

尼崎市立すこやかプラザ（子育ての悩みや地域の子育て情報） 6418-3463

尼崎市教育委員会事務局 教育総合センター「教育相談担当」  
(4歳から18歳までの子どもに関する相談  
不登校、友だち関係、学習や進路など)

6423-2550 (面接相談)  
6429-7564 (電話相談)